

2021 年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和 3 年 6 月 14 日（月）18:00～19:00

場所：大阪医療福祉専門学校（基礎医学教室より ZOOM 配信）

司会：林教務課長

書記：田中事務課長

外部：三原 修（業界代表）・勝元 伸二（業界代表）・段上 靖治（業界・卒業生代表）

覚前 潔（高校代表）・高岡 和美（保護者代表）

*欠席：湖崎 淳（業界代表）・田中 幸恵（近隣関係者代表）

内部：橋本 勝信（常務理事・学校長）・赤松 滋子（事務局次長）・平木たい子（教務部長）

岸村 厚志（教務部長）・林 亜遊（教務課長）・田中 研志（事務課長）

●開会の辞：林教務課長

緊急事態宣言発出を鑑み、「2021 年度 学校関係者評価委員会」は ZOOM での開催となっている。

●学校長挨拶：橋本学校長

本日は新型コロナウイルスの緊急事態宣言の折、学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校の学校関係者評価委員会にご参加頂いたことに心から感謝とお礼を申し上げます。

本日は職業実践専門課程についての内容の議論になる。職業実践専門課程は、修業年限 2 年、総時間数 1700 時間、または総単位数が 62 単位以上の内容になっている。2014 年より文部科学省が新たに創設した学校制度職業実践専門課程がスタートした。これは職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とし、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを文部科学大臣が認定し奨励することになり、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることが目的になっている。学校関係の方では、学校評価ガイドラインに基づいて、自己評価、企業施設などの役職その他の委員で構成する学校関係者評価委員による評価の実施、また評価の評価結果の報告表並びに情報提供などの取り組みに関するガイドラインに基づく向上的情報提供、情報公開の実施が義務付けられている。本日は、この学校関係者評価委員会の方で自己点検に関するものをしっかりと議論して頂きたい。大阪滋慶学園の方は、業界目線・学生目線・教師目線の擦り合わせや、バランスを確保しつつ業界と学校が win-win の関係となり、近隣の施設・地域の方々とも win-win の関係で、業界研修等を実施している。業界職業人としての教育の定着を図っていきたいと考えている。今日は学校関係者評価委員会にご参加頂いたことにお礼申し上げますとともに、是非忌憚のないご意見を賜りたい。

●出席者紹介：林教務課長

本日ご出席して頂いた学校関係者評価委員会の先生方をご紹介します。業界代表として、りんくう永山病院より三原先生にご出席頂いている。同じく業界代表として、岸和田徳洲会病院より勝元先生ご出席頂いている。高校関係代表として、大阪府立茨木西高等学校より覚前校長先生にご参加頂いている。保護者様代表として、視能訓練士学科3年制課程高岡 芽衣さんの保護者様、高岡 和美様にご出席頂いている。

●2021 年度重点項目目標説明：赤松事務局次長

新型コロナウイルスの関係上 ZOOM にて配信させて頂く。2020 年度の総括より始める。学生募集は、310 名のところ 315 名に入学して頂いた。しかし、全学科定員を達成した訳ではない。残念ながら作業療法士学科の夜、言語聴覚士学科は達成ができなかった。要因としては、少し難しくなっている社会人マーケットに上手く打ち出しができなかったと反省している。社会人が故に丁寧な教育内容を求めている方が多いため、その打ち出し出しをきめ細かくして、2021 年度の学生募集をしていく。

退学者については、目標は 35 名の 4%を目標としていたが、残念ながら 4.6%で 40 名の方が退学された。その中で、一年生が突出しており 24 名。それから通年で休学されている方が 12 名いたため、その年に退学された方は 28 名になる。2021 年度生は、通年で休学されている方は 1 名となっているため、2021 年度の退学者は大幅抑えられると考えている。この 24 名の中で社会人経験者の方の退学が多くなっているため、社会からまたリカレントということで教育をされる方の難しさというものを私たちは感じている。大人扱いというのはやめて、きちんと向き合っていきたいと思っている。

就職については、3 月 31 日に 99.6%と一人だけ決まっていなかったが、4 月 2 日には 100%全員が第一専門職で就職することができた。2020 年度は新型コロナウイルスの影響で、LINE などの SNS を使用して、履歴書の指導や模擬面接の指導などを行ったが、学生さんからは非常に好評だった。夜間部の学生の対応として、火曜日と木曜日にキャリアセンターを開室したため、夜間部の学生さんたちにも非常に喜ばれた。2021 年度も続けていきたいと考えている。

学費については、全員に完納して頂いた。

国家試験の合格率については、またご相談させて頂きたいところでもあるが、理学療法士学科の昼間部が今年の 3 月あまりいい成績ではなく、67.5%だった。理学療法士学科の夜間部は 90.7%、作業療法士学科の昼間部は 84.6%、作業療法士学科の夜間部は 89.5%、視能訓練士学科 1 年制は 93.3%、視能訓練士学科 3 年制は 94.6%、言語聴覚士学科は 92.9%、診療情報管理学科は 92%、社会福祉士は 100%だった。大変反省すべき点は、新型コロナウイルスの影響に逃げる訳ではないが、やはりいつものように国家試験の前日まで来て頂いてやるという最終の追い込みができなかった。国家試験を受けることができなくなると困るため、2 週間前には自宅で待機をして頂いた。その辺りの影響もあり、追い込みができなかったこ

とが一点。あと、やはりクラス運営を根本から見直さないといけないと大変反省している。こちらについてはまた詳しくお話をさせて頂きたい。

予算管理と経費削減については、実習地がほとんど関西になっているため、遠方の実習が少なくなり、実習の方は違うところにお金をかけられるようになった。それから講師の先生方のセレクト変更等の見直し、会議でのペーパーレス移行が大分できた。テレワーク促進のため、リモートビューというものを取り入れ、お家からでも授業ができ、仕事場と同じような形で仕事ができるように配慮した。

職員のモチベーションと人材育成については、ワークライフバランスで、効率を上げて定時に帰って頂くようにしたため、資格や検定を取りに行くことができるようになり、職員 52 名内の修士の取得者は 17 名になった。また去年は、ファイナンシャルプランナーの資格も 1 名取ってくれた。ワークライフバランスで効率を上げて成果を出すということだが、国家試験は△から×に近いと思う。専門学校として本当にお恥ずかしい成績となったが、その方々には今も学校に来て勉強して頂いている。

教育の質の向上については、学内にて FDSO 研修で年に 2 回研修をしている。去年は 8 月 20 日と 12 月 14 日に実施した。

提携施設との関係を強化するというので、八尾徳洲会病院様と提携先病院として書類を交換した。本当であれば、2020 年度から教員の臨地での研修が始まる予定だったが、新型コロナウイルスの影響で、2021 年から研修が行われることになっている。

防災の体制整備と校舎保全については、避難訓練は 2 回実施した。6 月 26 日と 10 月 30 日に火災と地震に分けて実施した。LINE を利用しての連絡網や、長期修繕計画に基づく保全の実施を 2020 年度は行った。

●2020 年度 自己点検自己評価について：平木教務部長

事前に A3 の資料を郵送させて頂いているため、そちらの方と合わせてお聞き頂きたい。A3 の資料左側には、昨年度の自己評価と今年度の本校で行った自己評価がある。先生方には、右端の方に記入欄があるため、また後ほどご記入頂きたい。全部で 48 項目あるため、本日は判定基準を満たしていない項目を中心に発表報告をさせて頂きたい。まず一番のところで、理念・目的・育成人材像は定められているか、この赤い丸のところは昨年と同様に基準を満たしていると考えている項目になる。これから出てくるスライドの中に、昨年と変わっているところは、今年満たされたと思えばブルーで「○」、今年達成できなかったところはブルーの「×」で表示するようにしている。この一番のところは全て達成できたと思う。

2 番については、学校の特色で四つの信頼となるが、こちらの方も「いつも笑顔で元気に挨拶を」と人間教育に力を入れており、入学前から卒業後もキャリアを積んで行けるようなフロー教育を実施している。

「学校の将来構想を抱いているか」というところについて、こちら 4 番の方が空白になっている。学校の方では将来的には海外でも活躍するような大きな構想を抱いているが、まだ

学園本部との情報共有が徹底できているとは言えないため、今年もこちらには「○」は入っていない。経営運営方針については、達成できたと思っている。社会ニーズに応えられるような学科コースを将来ビジョンとして定めている。

事業計画については、5カ年計画ということで5年ごとに見直しており、こちらの方も順調に進んでいると考えている。「運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか」ということについて、昨年は新型コロナウイルスの影響で、急な対応や急な意思決定を求められることが多々あったが、指示系統や決定系統など今までよりも明確化できたように感じている。人事や賃金といった職員に関することについて、こちらの方も非常にデータベース化が進んでいるため、非常に良くなっていると考えている。意思決定システムの確立について、特に4番の学生さんからの意見については、授業アンケートを実施したとしたら、必ずそのフィードバック等を行うようにしているため、こちらの環境も整っていると考えている。情報システム化等による業務の効率化について、新型コロナウイルスの影響でテレワークが進み、学校の方も導入した。サイボウズを利用して、私たち教職員の予定をみんなで共有できるようにした。本日の会議でもそうだが、私たちはペーパーレス化を導入している。効率的にできるようにはしてはいるが、それが本当に効率的に行われているのかを検証できるシステムについては、まだ未着手の状態である。「3-10」については、去年が3だったが、4ということでひとつ「○」が増えている。昨年新しく医療総合学科をつくった。今年にかけては、理学療法士学科の方ではメディカルトレーナーコースや、作業療法士学科の方でも防災コーディネーターを将来的に進めようということで、去年からコースのリニューアルも実施している。「3-11」については、ホームページの方にも記しているが、ディプロマポリシーについては到達レベルに達していると考えている。「カリキュラムは体系的に編成されているか」ということについて、ディプロマポリシーを到達するようなカリキュラムを各学科組んでいる。育成したい人材に向けて、どの時期に、こういった科目を履修して頂くか、その科目同士がどういった関連を持っているかのカリキュラムツリーは作っているが、公表できるまでには、まだ書式が統一されていないため、4番のところは「○」が入っていない。こちらの方は課題として取り組みたい。「学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか」については、1番のカリキュラムマップについては作ってはいるが、業界の第三者による検証システムをまだ実現していないため、こちらも課題として残っている。14番のキャリア教育については、1年次からキャリア教育しているが、特にチーム医療論ということも含めて充実していると考えている。15番の方も昨年同様に教職員の授業のアンケートを中間と期末で授業評価をさせて頂いている。16番については、先ほどお話があったように教職員のFDSD研修を実施している。17番の成績評価単位認定については、試験の作り方等について学校のガイドラインを作って進めている。「3-18」の資格取得については、先ほど話があったように国家試験の結果があるが、指導体制というのは作っている。国家試験対策委員があり、各学科で点数に応じたクラス別の指導を実施、昨年も新型コロナウイルスの影響があったが、オンラインで授業を行った。あと、ビデオデマンド

という形で、個別で何回でも自分が学習できるような環境が整っていたということで 4 ポイントにしている。

就職率については、100%になっている。20 番の「資格取得率の向上が図られているか」については、システムは組んでいるが、先ほども話があったように最終的に最後の追い込みができなかった。最後のチェックをした後のアクション、このアクションの起こし方が少し弱かった。それが国家試験の成績の低さにつながったと反省している。こちらは減点で 3 点にしている。退学者の低減については、休学中の学生さんが時々音信不通になってしまうことがある。毎月連絡をして、課題を与えていつも繋がっているようにはしているが、こちらも新型コロナウイルスの影響で、対面が減り、コミュニケーションの場面が減った。これは引き続きあると考えているが、まだ徹底できていない。卒業生・在校生の社会的な活躍については、これも引き続き卒業生・在校生の社会的活躍をした場合の報告システムが少し弱い。ため、引き続きこちらを課題として上げている。学生相談については、SSC もあり、教員が学生の情報を共有できるような SIP システムも揃えている。学生の経済的側面に対する支援体制については、先ほどフィナンシャルプランナーの話があったが、経理課長がこちらの資格を取得したため、こちらの項目は満点とさせて頂いた。健康診断については、こちらの方も慶生会と提携しているため、学生の健康管理も本当に細かく把握ができていると考えている。28 番の学生の生活環境への支援については、教職員の裏口が自由に出入りできるようになっていたが、昨今非常に物騒な時代になってきたため、電子錠を付けた。学生も裏口の通用門より入れていたが、通用門は閉鎖し、正面入り口から入るようにして必ず受付や守衛の者の目が届くようにしたため、ポイントを 4 に上げている。保護者様との適切な連携については、こちらの方も昨年と同様 4 ポイントとさせて頂いている。卒業生の支援についてもできている。施設・設備については、こちらの方も昨年同様 wi-fi の方も整っており、設備の方は段々と進んでいっていると考えている。学外実習インターンシップについては、「学生全員に同レベルの実習地が確保できているか」というところが非常に難しく、学生さんによってやはり伸びの違いがあり、時期的なこともある。同レベルの実習地に行けるように工夫をしているつもりだが、非常に難しい状態のため、ポイントは入れていない。防災の方は整っている。学生募集については、先ほど事務局次長より話があったが、1 部未達があるため、3 のままである。入試については、こちらも 4 ポイントとしている。学納金については、全員完納となっているので妥当になっていると考えている。財務基盤については、安定していると考えている。外壁工事や空調の管理といった大きな修繕の方もできている。4 番の「必要に応じてカリキュラム等を変更している」ということも先ほど申したようにできていると考えている。最後になるが、「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか」については、昨年新型コロナウイルスの影響があった。先生方の資料には 2 としているが、高齢者に対する地域貢献のところはコロナ禍でも ZOOM を使用し、緊急事態宣言がなかったら行っていた、ということで自己評価を 3 に訂正頂きたい。ただ、外部に対するオープンセミナーは昨年できなかったため、自粛ということで控えさせて頂いたため、減点と

なっている。47 番学生のボランティアについては、こちらの 3 番と 4 番は達成できなかった。新型コロナウイルスの影響で情報自体が非常に集まらなかった。外から来てもらっては困るというような状況があったため、学校からは提供できなかった。必然的に 4 番も「×」になっている。最後になるが、グローバル人材の育成については、2 番の方もいつもであれば中国から作業療法士学科に留学生が来られていたが、こちらも昨年は中止となったため、こちらも 3 ポイントから 2 に減点となっている。新型コロナウイルスの影響でできなかった事がいくつかあるが、今年はその 2 年目となるため、違う形で何か提供できるように進めていきたいと考えている。

●2021 年度重点項目目標説明：赤松事務局次長

一番目に先進的な取り組みということについて、新型コロナウイルスの影響で本当に教育が変わり、遠隔授業が入ってきた。2020 年度は学生掲示板 Moodle を入れて、その中にカリキュラム・シラバス・教材・課題等を入れていたが、2021 年度は Microsoft 社の Teams を導入した。4 月 1 日から Teams・Moodle・ZOOM などを利用して学生さんに授業の方を展開している。今現在緊急事態宣言中だが、3 割の学生さんは登校し、7 割が家で授業を受けるという形にさせて頂いている。今年からは、どうしてもパソコンで授業を受けることが多いため、学校が中に入らせて頂き、1 年生 315 人中 180 名の方が学校を通してパソコンを購入した。それで飛躍的に携帯ではなく、パソコンで授業を受ける方が増えている。それから実習地の先生方に非常にご協力頂き、緊急事態宣言が出て、実習が中止になった場合には実習先の病院からこういった ZOOM を使って、そこにいるかのような実習を学生さんが座ったまま見せて頂くといった取り組みをした。本当は実習地に行って頂きたいが、緊急事態宣言中はなかなか難しいため、そういった取り組みを推進している。学生募集については、今年も 310 名ということで、順調に 6 月 1 日から適性 A0 入試のエントリーが始まった。現在 150 名弱のエントリーが出ている。17 日までが一回目のエントリーとなるため、かなり順調に來ているのではないかと考えている。退学率の方は、先ほどお話しした通り、1 年生対策ということだが、やはり一人一人を大切にという原点に戻って、決め細やかな担任業務に教員の方が当たっているため、今年は少し期待できるのではないかと考えている。学費の完納については、2020 年度より高等教育無償化がスタートし、その手続きもすごく煩雑であるが、学費の支援体制を強化するために今年度から専任の職員を一人奨学金担当で置いた。学生からもいつでも奨学金や学費のことを相談できるような体制をつくった。今のところ学生からは非常に好評を頂いている。LINE 等でも相談できるようにしており、学費の完納 100%を目指している。先程から国家試験のことがよく出てきているが、本当に学校全体が一致してシステムを変えて、頑張って全員を合格させるように今行っているところだが、この感情論だけではだめで、やはり J-web・ZOOM・Moodle・Teams 等を使いながら、通学の時間も使いながら、国家試験の勉強をして頂けるような体制をつくっている。就職については、今年も 100%を目指している。残念ながら 2020 年度は 3 月 31 日まで 1 名残ってしまったが、今

年は2022年度3月31日までに全員の方の就職を決めたいと考えている。5月にオンラインにてリハビリ関係の就職説明会をさせて頂いた。7月には「就職フェア 2021 新大阪キャンパス」を開催することになっているため、ICTを用いた就職指導にさらに力を入れていきたいと考えている。教職員のさらなる資質の向上ということについて、これもICTを利用してかなり雑務を軽減していきたいと考えている。そういった形で、それを上手く使いこなせないとダメだが、定時で業務を終わらせる、もちろん学生さんの対応等があり、急な業務が学校にはたくさんあるが、それには懇切丁寧に対応していきながら自分の仕事はスケジュールリングして頂きたいとお伝えしている。これも業務効率化を図る情報システム化を一斉整備するということで、先ほども話したが、家にいながら職場でのパソコンが見られるリモートビューを15台導入したため、テレワークをする方はそれで仕事ができるようになった。また、会議でもTeamsが非常に使いやすいようで、各学科かなり使っている。学生による授業評価については、授業アンケートもこのMoodleという学生掲示板で行なっている。専任教員の教育力・対面・動画・ZOOM・Moodle・Teamsといったものを取り入れて、90分を全部ZOOMでやるなど、一つのツールでやる事は難しいため、上手く組み合わせて、これを学内FDSD研修会でやっていかないといけないと思うが、学生さんに難しいことも楽しく伝えられるような授業展開をして行こうということで、学内で今検討している。卒業生の社会的活躍や評価を把握については、これも本当に全学同窓会やゼネラルマネジメント研修等をやっているが、なかなか集まって頂けなかったが、実はこの遠隔でも講座ができるようになってから、前は40名近い方に集まって頂いた。こういうICTを使った研修というものが、やはり卒業生にとっては、時間もなかなかないため、かえって良かったのかと思う。今後もそういったメニューをつくっていききたいと考えている。施設・設備については、2016～2017年度の2年かけて、全館10階までのトイレの改装をした。2018～2020年度は10階までの全てのエアコンの空調を替えさせて頂いた。今年は外壁工事をさせて頂いて、6月いっぱいではほぼ工事が終わる予定になっている。やはり毎年手を加えていかないと、どこかしら故障が出てくるため、大阪医療福祉専門学校も20年を迎えていろいろ手を加えないといけないところがあるため、予算組みをしてきちんと校舎保全をやっていきたいと考えている。新型コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルスなどの感染対策につどまだこれは本当にまだ新型コロナウイルス一色であるが、アルコール消毒や各教室に次亜塩素酸の噴霧を置いた。今は6人ほど新型コロナウイルスに感染した学生さんがいるが、バラバラという形で、お蔭様で、クラスターの方は起こさずに済んでいる。今後もこういった消毒を徹底したいと考えている。防災に対する体制については、火災の避難訓練は6月25日、地震の避難訓練は10月22日に予定をしている。やはり災害に対する意識は高めていかないといけないと思っている。作業療法士学科に防災のコースもつくったため、その辺りと連携して、2021年度五つの数字を守れるように教職員一丸となって行っていくので、また先生方にもよろしくお願いいたします。

●質疑応答

・三原 修先生

前回の小委員会でも申し上げたが、理学療法士学科の昼間部があまりにも国家試験の成績が悪かったというところをご指摘させて頂いた。今のいろんな項目について、環境面で物理的なものやハード的なものを含めて、本当に整われていると思う。それなのにとというのがちょっと私的にはある。それが何故かというのが理解できなくて小委員会の中でも大分お聞きした。言葉が悪いが、環境を整えすぎているのかなと思う。こういった会議をずっとされてきて、本当に学生さんのためには良い環境が整っている。苦労しなくても勉強ができる環境がある。理学療法士学科の中でも夜間部は合格率が全国平均より高く、それは本人のモチベーションによる問題だとお聞きした。それであれば余計かなと思ってしまう。先生方や我々も環境を整えることが学生さんの資質向上につながるであろうと思って、今まで言ってきたが、どうもそれが逆目に出たのかなと思った。新型コロナウイルスの影響で、今まで指導力を発揮できる環境にあった所から放たれると、やはりご自分で考えてできないところをすごく痛感している。ちょっときつい言葉で申し上げたが、怖い先生にはなくていいが、 厳しい先生には是非なって頂きたい。コロナ禍で、こういう時代だから、環境だから、こういうことだから、ということで、お互いが甘えることなく、やはり先生方で厳しい指導をして頂くことが必要である。業界団体の代表として申し上げるなら、卒業生の方が国家試験を受けるまでに就職内定し、「結果だめでした」と言われると、これはもう仕事場の中ではその年度の必要人員が足りなくなってしまうため、多大なる影響が出る。その辺のことをお考え頂ければ、やはり専門学校というのは、ライセンスを取るのが目的である。それだけにやはり何とか上げて頂かなければならない。この数字が2度と出ないくらいの勢い、決意で取り組んで頂くことが、業界団体代表として是非望むところである。この数字が続いてしまうと信頼を失う。そうすると就職率が絶対に下がる。その辺りを肝に銘じてもらいたい。我々もいろいろと申し上げてきたが、それがつながって来なかったことは反省し、少し目線を変えて意見を申し上げないといけないと私自身反省している。その辺も含めて取り組んで頂いて、早期に具体的な日程を決めて頂いて、対策に取り組んで頂きたいと思う。

・勝元 伸二先生

今三原先生から厳しいお言葉があった。仰られたことはその通りだと思う。採用する側からすると、資格を持って来てくれるものと思っているため、それが取れずに来るという形になると厳しいとは思っているところである。新型コロナウイルスがあつて、学校の方ではすごく良くされていると思う。三原先生も言われていたが、環境はすごく整っており、恵まれた環境であるというところで、就職についても実質的に 100%という形のため、結果も出ていると思っている。病院に勤める側からすると実習を受けることがなかなか難しい。まるっきりだめというわけではないが、やはり出来るだけ控えたいというところはある。その中で

学生さんのために、どういうことができるのかを私どもの方でも考えないといけないと思っている。就職 100%というところだが、就職したら後に、逆に実習に行けなかった学生さんも多いことから、「思っていたのと違う」という形で、早期の退職につながっていかないか心配している。そういうことがないように、実習には行けなかったが、職場の環境としてはこういう形だということをどうやったら伝えられるのかということをもっと学校とも相談しながら病院の方でも出来る事を考えていきたいと思っている。

・ 覚前 潔校長

話を聞いて、多方面に渡って頑張っておられると感じている。高校現場も新型コロナウイルスの影響を受けている。6月3日に体育祭を実施する予定だったが、緊急事態宣言が延長となり、緊急事態宣言下では体育祭をしてはいけないということで、9月に実施するという状況となっている。本校も海外との交流に力を入れていたが、これで丸2年関係が途絶えてしまうため、関係が消えるのではないかと心配している。生徒に話をしているのは、新型コロナウイルスが収まったら「あれをしよう」「これをしよう」というのではなく、発想を変えないと多分収まらないままに卒業してしまうだろう。感染症対策をしっかりと取りながら、学校としてもできる最大限の冒険はしていくが、その結果クラスターが発生すれば当然社会的信用を失うため、「君たち1人1人の協力が必要だよ」ということで、滋慶学園もそうだと思うが、本校の生徒さんもよく頑張ってくれていると思う。私が高校生の時にこんな制約に果たして耐えられたのかなという風にある意味感心している。教師も教育実習というのがあるが、今年度着任した非常勤講師が残念ながら教員試験にあと一步届かなくて講師をしながら勉強を続けている先生で、しんどくなる先生が結構いる。聞くと、やはり教育実習ができていない。高校の教育実習は最低3週間だが、実際には1週間とか聴講で済ませたというような形で、現場に立つと、やはり見るのとやるのとでは大きく違うため、先日も2週間ほど休暇を取得した。本人を責めても意味がないし、責めると余計状況は悪化すると思う。教員もそうだが、医療関係というのはもっともっとプレッシャーがあると思うので、実習が思うようにできないということは意外に大きいのではないかと考えている。そんな中でどうしていくのかということを考えていきたい。

・ 高岡 和美様

入学式から何度か学校に行かせて頂き、こうして話を聞かせて頂いて、この学校が取り組んでいることにすごく感心している。子供も安心して預けて、社会人にさせられると思う。すごく良い学校に入れたと思っている。

・ 段上 靖治先生

三原先生の話をお聞きし、何故こんなにも設備が整っているのに不合格者が多いのかというところで、私も小委員会に参加させて頂いて、僕が卒業した15年くらい前の合格率は

結構良かったと思う。同級生全員が合格していたと思う。僕が3期生で卒業させて頂いていて、他の教員のノウハウも整っていないという状況で教科書もまだ選定途中で、設備も最初立ち上げた時の状況の中で試行錯誤しながら、多分教員と学生が一体となって国試合格に向けて取り組んでいたと思う。その中で、今は在籍されていないが、その時の担任の先生から褒められた記憶がない。国家試験が終わって、翌日の自己採点の時に初めて「良くやった」と褒めてもらった。そういう環境でやってきたことが、自分たちがやってきたこの3年間は間違いじゃなかった、と認められた瞬間だった。それが現状20年経ったが、その中で先輩が作ってきた実績というものが独り歩きして、結果、「学校に入れば100%合格できる」と学生が思うところがあるが、もしかしたらあったのかもしれない。「その実績を作っていくのは、あなた達なんだよ」ということを学生に伝えていくところが少なかったのかなと思った。勝本先生がお話されていた新入スタッフの早期退職とかの件は、現場のリハビリ目線ではしか見れないが、「実習に行っていなかったからイメージと違った」というのではなく、現状当院で勤めてくれているスタッフに関しては、実習に行けなかった新入スタッフは全員だが、その中でリバウンドというか反動というか、今まで実習に行けていなかったからその分頑張っ、少しでも技術や知識等を吸収しようと意欲のあるスタッフの方が多いので、その辺は実習に行っているか行っていないかに関わらず、やはりスタッフひとりひとりのモチベーションによるものかと思った。

・林教務課長

国家試験の結果については、教職員も非常に悔しい思いをしている。来年度に向けて教職員一同一丸となって、本日先生方から頂いたご意見をもとに、学校運営を進めていきたい。先生方も引き続きよろしくお願いいたします。

●学校関係者評価実施に関する説明：岸村教務部長

先日送付した評価項目を書いて頂いて、できればコメントも書いて頂きたい。同封している返送用封筒に送って頂きたい。6月末を締め切りとしている。データの方が扱いやすいという方がいらっしゃれば、平木教務部長よりメールをお送りする。

●閉会の辞：林教務課長

2021年度学校関係者評価委員会を終了させて頂く。先生方には、ご多忙の中、ご出席頂き、また貴重なご意見も頂き、感謝している。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。